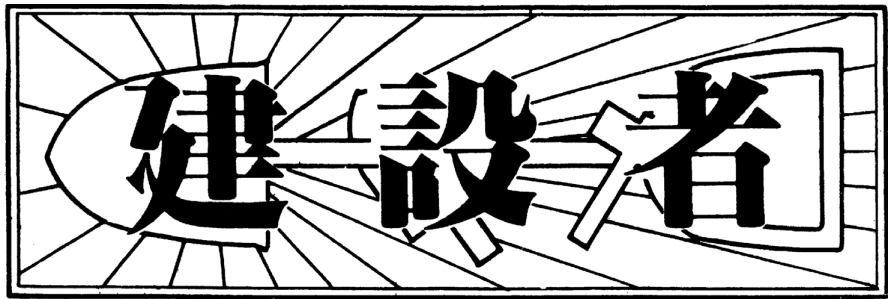


今月の葛飾組織現勢

2018年8月1日	4,566人
加 入	24人
転 入	0人
脱 退	46人
転 出	1人
2018年9月1日現在	4,543人



東京土建一般労働組合
葛 飾 支 部

〒124-0012 葛飾区立石8-34-4
電 話 (5698) 1 2 6 1
FAX (5698) 1 2 6 2
発行人 細 貝 文 洋

秋の拡大月間到達状況

	9 / 1 付 人員	秋の拡大月間		
		目標	成果	到達率
たつみ	532	19	1	5%
奥戸	405	14	1	7%
本田立石	329	11		0%
青戸	170	7		0%
中央	390	14		0%
堀切	279	10	1	10%
西亀有②	91	3		0%
亀有	303	10		0%
細田高砂	385	14		0%
柴又	187	7		0%
新金町	340	12		0%
北水元	210	8	1	13%
幸田	266	9	1	11%
水元	428	15	1	7%
その他	224	8		0%
合 計	4539	161	6	4%

2018 / 8 / 31 集計

テクノプラザかつしかで開催

秋の拡大成功に向けて

支部活動者会議&秋の拡大出陣式



拡大達成に向けて「ガンバロー」

8月26日(日)、支部活動者会議と秋の拡大出陣式をテクノプラザかつしかで行ない

ました。この日は工作教室と日程が重なる分会もあり、午後の出陣式のみに参加と

なる人もいました。活動者会議の参加者は151人、出陣式の参加は157人でした。委員長あいさつ、来賓挨拶のあと、村本副主任書記による「建設キャリアアップシステム」の学習会が行われました。労働人口や建設産業へ従事する人の減少をグラフで示し、持っている技能に応じた賃金が支払われていないことが原因の一つであると話してくれました。そうした持っている技能や今までの就業履歴の蓄積をできる仕組みが建設キャリアアップシステムであり、登録を推進していくということでした。

その後、芳井本部職域対策部長より、西日本豪雨災害視察の報告がありました。映像を交えての説明から、被災地域の現状がよくわかる内容でした。その後は、こうした自然災害への備えとして、どんな火災共済とどんな地震共済の推進の訴えが、後藤本部厚生文化部長と及川厚生文化部長からありました。

代読をしてくれました。報告は2面に載せていますので、ご覧下さい。15時過ぎには活動者会議が終わり、会場の設定をした後は、秋の拡大出陣式です。あいさつのあとは、阿久津執行委員長と土屋組織部長によるダルマの目入れが行なわれました。各分会が壇上に上がり、スローガンの発表とともに、決意表明も行ないました。拡大成果のモチベーションもあり、この日の成果は4人でした。最後に拡大ガンバローを全員で行い、拡大出陣式も終わりました。

建設国保を守る

議員への要請行動

8月10日(金)、東京都議会議員と国会議員へ、土建国保を守る取り組みの一つであ

る議員への要請行動を行ないました。井岡社保対部長、小藤書記長、森書記の3名で、

を手渡し、要請の趣旨を説明の上、賛同署名への協力をお願いしました。

秘書の方へ要請書を渡しました

都議の和泉尚美議員、野上純子議員、船坂ちかお議員、米川大二郎議員の4名と、平沢勝栄衆議院議員の元へ伺い、要請書を渡して来ました。残念ながら、議員本人には会うことが出来ませんでした。秘書の方へ要請書一式

8月24日(金)時点で、賛同署名を送ってくれたのは、船坂議員と米川議員、野上議員の3名です。今後は、議員全員から賛同署名をもらえるように、時期を見て声がけをしていく予定です。

寅さん

今年の夏の甲子園は、観客を沸かせた。一番は準優勝の秋田県代表の金足農学校だ。秋田県勢の甲子園決勝進出は103年ぶり。秋田県民の盛り上がりはSNSなどを見てすごい。優勝すると東北勢で初優勝という快挙だったが、結果は惜しくも準優勝。それでも、この結果は地元を活気付けた。

一方、優勝した大阪桐蔭高校は、史上初の春夏の甲子園を二度連覇するという快挙を成し遂げた。決勝はどちらが勝っても『初』となる見えたある試合だった。甲子園が盛り上がる中、台風が発生も盛り上がった。発生する回数も多く、進路も変則的だ。8月に9つの台風が発生があったのは、24年ぶりだという。豪雨災害の被災地域を通過することが多い。復興が遅れることが心配だ。危険な暑さと言われた今夏に、冬の天候が心配になる。雪国での大雪も困るが、普段雪が降らない地域での降雪も困る。自然災害は苛烈さを増しているように思える。

困るといえば、中央省庁や自治体による障害者雇用の水増しだ。中央省庁や自治体はやらす、民間企業には押し付けるのか。裁判所でも水増しがあったとの報道に、裁判所が法律を守らないのかと驚いた。雇用を望む障害者へも、障害者を雇用する企業へも、ひどい裏切りだ。模範となるべく、その在り方を正して欲しい。

戦争も核も無い平和な世界を願って

原水爆禁止2018年世界大会

葛飾支部代表3名が広島へ

今年も原水爆禁止世界大会が、広島と長崎でそれぞれ開かれました。核兵器の廃絶と核に頼らない社会を目指して活動しています。

葛飾支部では、広島で開かれるものへ、代表が参加しました。支部役員から益子副執行委員長（たつみ）、女性の会から富田美智子さん（本田立石）、青年部から松山智里さん（幸田）です。

おかしな国日本

益子栄治さん

【たつみ・副執行委員長・益子栄治】8月4～6日と、広島に行かせていただき、原水爆禁止世界大会に出席しました。昨年も長崎に行かせてもらい、2度目です。

初日は、午後から開会式です。昨年同様に世界各国から人が集まっています。訴えることは大体同じで、「核兵器

禁止、廃絶に、核兵器禁止条約に日本が参加していないこと」などです。

2日目は分科会で9条改憲ストップと核兵器禁止、廃絶がテーマです。講演に活動報告、質疑応答など。印象に残ったのは、講演者が「本当はこんな行動は止めたい。そのためには核が無くなり、心から平和だと言える時がくること」と話したことだ。また、一般の発言者が自分の団体の行動など（内容より量や数字



地域の参加者とともに記念撮影をしました



益子栄治さん

などの自慢ばかりするのが気になった。

3日目は早朝より葛飾区の献水式へ。区長の姿はなかったが、区議や区の職員、他団体の人たちと一緒に参列しました。すぐ近くでは、安倍首相が演説していたり、TVのレポーターがいたりすごい人の数です。その後、閉会式へ出席し、終了しました。広島大会は長崎大会より大

諦めずに知る

松山智里さん



松山智里さん

私は8月4日から6日にかけて、原水爆禁止大会に参加してきました。まず、何故参加しようと思ったかと言うと、ただ広島の「原爆ドーム」を見たい。そう思い、今回参加をさせて頂きました。当日に至るまでは、「知らない方と一緒に行動をしなければなら

規模でしたが、お祭り気分のように思えました。TVでは地元の高校生が外国人観光客に被爆のことを訴える番組がありました。見ていると、ある外国人から「うちの国と日本は戦争をした」といっていたが、高校生は初めて聞いたと驚いていた。「もう少し歴史を勉強してから被爆を語れ。被害者面するな」ぐらいのことは言われていた。

確かに日本は世界唯一の核兵器の被爆国で、核の恐ろしさを一番知っているはず。だからこそ、ノーモア広島、ノーモア長崎、核廃絶をアピールしています。

しかし、残念なことに、核兵器禁止条約には参加しない、9条改憲。そんな国が世界平和を訴えても誰が耳を傾けてくれるのでしょうか。被爆国が核兵器禁止条約に参加しないおかしな国、日本。これでもいいのでしょうか。



原爆ドーム

らない。1人で3日間うまく過ごせるのか」と本当に不安で仕方なかったのですが、実際に空港につくと、最後に到着した私に対して優しく声をかけて待っていてくれた方がいて、すごく嬉しかったことをとても覚えています。一緒に参加をした方々は皆、優し

平和な世界を願う

富田美智子さん



富田美智子さん

今回、初めて、原水爆禁止世界大会に参加させていただきました。

8月4日～8月6日に開催されました。1日目は開会式。5000人が参列しました。2日目は分科会。3日目は閉会式。6000人が参列という流れでした。

2日目の分科会は動く分科会でした。全部で15のテーマがあり、何を選択すれば良いのか戸惑いましたが、1日目の空港からホテルへ移動するバスの中で、残った2枚のチケットのうち「どちらにしますか？」と聞かれ、特別集会2「非核平和の朝鮮半島とアジア―日本の役割」を選択しました。



葛飾区の小中学校からの折鶴

分科会は、パネリスト（アメリカ、韓国、中国、日本）の4人が意見を交わすパネル討論会でした。参加者

くて、親切な人達でした。

そして、実際に広島で原水爆禁止大会開会総会、閉会総会、分科会では「核と基地のない日本、沖縄との連帯を」に参加しましたが、たくさんの方の話を聞いて、なんて甘い考えで参加をしてしまったのだろうと少し後悔をしました。被爆者の話を聞くととてもショックで本当に思ったことだと信じたくありませんでした。私も、できる限り勉強をして、広島で起きてしまったこと、原爆のこと、核や兵器のことを知っていこうと思いましたが、結局何もわかりませんでした。私がまだまだ

未熟だからなのかとも思いましたが、たった2泊3日で全てを知ろうと思ったのが間違っていたんだと思います。とても誰もが理解をし、全てを語れるとは思えません。

でも、私は過去の日本のこと、これからの日本のことと理解すること、受けとめなければいけないこと、全てを調べて考えるのは難しいかもしれませんが、目を背けずに現実を受け止め、少しでも知れていけたらと思います。私はそれを決してあきらめません。

今の10代、20代は現実から目を背けてしまう人が多すぎる。19歳の私が言うことではありませんが、未来は自分たちにかかっているということ、誰もがそういう思いを持っているのであればならないと私は思います。死ぬ間際に後悔したくはありません。何も考えず成長した大人にはなりたくありません。原水爆禁止大会に参加させて頂いてさまざまな感情や考えが生まれ、本当に参加をしてよかったと思います。甘い考えで参加をしてしまいましたが、私の選択は間違っていないと今は自分で自分をほめてあげたいと、そう思います。

は235名。座席が足らず、立ち見が出る程熱気が溢れる討論会でした。しかし、事前に何の準備もしないで参加させていただいた私には難しく感じました。

これまで原爆について理解していたつもりでしたが、今回被爆者の方のお話を直接聞かせていただき、平和公園内に葛友会慰霊碑があることなど、多くのことを習得、経験させていただきました。

原爆が広島・長崎に投下されて73年目。日本被爆者の方の平均年齢は82.06歳だそうです。この悲惨な出来事が二度と繰り返されてはならない。核の無い平和な世界を願うばかりです。

余談になりますが、後日原爆資料館を訪れました。本館がリニューアル工事中で東館のみでしたが、外国の方が多く来館されており、母国に帰られたら、語り伝えてくだされば良いなと思いました。

上棟式は大賑わい ものづくり匠の技の祭典

職人技を見て、体験して



上棟式には、多くの人が集まりました

8月8日から8月10日の3日間、東京国際フォーラムで今年も「ものづくり・匠の技の祭典」が行なわれました。全建総連が出展するため、東京土建も参加しています。昨年までは、一日で建て方から上棟式、解体までを行なっていました。今年も前日に建て終えて、解体は最終日のみ。建ててあるものの内覧と上棟式がメインの催しです。建てたものの中ではカンナ削りの体験ができます。また、墨付けなどの職人の技を見られるようになっています。こちらの総監督は、葛飾支部の片岡茂樹技術対策部長（本田立石）。来場した人の質問に丁寧に答え、イベントを盛り上げてくれました。

注いで染める 注染を体験



季節の美しい柄の手ぬぐい

会場内では、職人技を見られたり、体験ができたり、面白い物ができたりするようになっています。今回、葛飾区立石から出展しています。型紙を使い布に絵柄を糊付けし、染料を注いで染めます。重ねた生地の上から染料を注いで染めることから「注染」と呼ばれるようになりました。裏表なく画面染まるのが特徴です。注染は独特の染色技法で、日本だけのもの。1枚の型で何色も染める「差し分け染め」や同時に2色以上の染料を用い濃淡を表現する「ぼかし染め」という独特の技法を活用します。



場所は立石4-14-9
東京和晒創造館です

工房での体験コースでオリジナルの手ぬぐいを作ること。型紙から作るコースもあり、自分だけのオリジナル手ぬぐいも作れます。伝統技法の手ぬぐいを利用してみてはいかがでしょうか。

宿題のお手伝い 夏休み工作教室

台風一過の中で 細田高砂分会

【教宣部 細田高砂 小林総一郎】東から西に向かう逆台風に脅かされた7月29日



だんだんと鋸の扱いも上達していきます

（目）、高砂団地まつり支援の木工教室が開かれました。台風は関東をそれて、近畿地方に上陸、西へ向い、開会時刻の9時半ごろには晴れてくる。雨を心配して会場は集会場の1室が解放さ、れブルーシートを敷く。材料を車から降ろして、本立て、フランチ、銅板表札の墨付けなどの準備をして待機。



指導員は大忙しです

【教宣部 堀切 細員文洋】7月22日（日）、小菅児童館で工作教室を開催しました。

毎年恒例 堀切分会

今回は焼きの作業がなく、二ス仕上げで終了でした。工作の参加者は、小学低学年が多い。5年生の女の子が本立てに挑戦。5年生になると鋸の引き方も、釘の打ち方もしっかりしている。低学年は鋸で本立ての型を切るのには難い。手を添え掛け声で調子を合わせ、ヨイショ、ヨイショと板を切る。始めのうちは釘打ちもおぼつかないが、完成に近付くとだんだん上手になる、いよいよ完成。そばに付き添っているおばあさんが孫より喜んでいて微笑ましかった。

用意したものは、1種類の「プラランター」。これを2部交代制で作りました。当日の役員さんは、日曜日開催ということで、10名の指導員で行いました。

1部は、午後1時30分から午後2時30分まで。9名の子供たちの参加で行いました。

2部は、午後2時45分から3時45分まで。8名の子供たちの参加で行いました。合計で、17人が参加しました。

『平成最後の夏休み』の短い時間でしたが参加してくれた子供たちにはよい思い出になったかなと思いました。

初日はオープニングセレモニーもあり、小池都知事も各スペースを見て回っていました。全建総連のスペースの前にも来て、片岡さんから説明



片岡さんが詳しく説明

を受けていました。小池都知事が見学を終えるのと、カンナ削りの体験の受付を開始。大人から子どもまで、カンナ削りを体験していました。一人ずつ職人がつけて教えるので、薄くきれいに削れています。

削ったものは多くの人が持ち帰っていました。上棟式はお昼頃から始まり、最初に祝詞を上げ、お菓子をまきます。けがのな

いようにと行うことで、餅ではなく、当たっても痛くない軽いお菓子になりました。「お菓子まきが始まります」と声をかけると人が集まり、集まった人を見てまた人が集まります。ご高齢の方で「餅まきをしたことがないから、初めてなの」と楽しそうに参加する方もいました。

建て方のスペースから少し離れた所では、木工工作の体験のスペースもありました。今年の工作教室は、昨年とは違ったものを用意。材料は全てカット済みのものを用意し、当日は釘を打つだけ。おかげで、以前より手の込んだかになる。

若手を呼ぶ企画を

分会若手交流会

今年の4月から始まった「若手交流会」。後継者不足、若手の参加が少ないといった状況を改善するために新たに作られました。若手の組合員との交流のために作られたもので、1年に1回だけです。が、1分会3万円の補助金が支給されます。

始めて数ヶ月の制度のためか、まだまだ利用率は低いですが、これまでに若手交流会を開催したのは、本田立石分会、中央分会、水元分会の3分会。7月に細田高砂分会が開催し、4分会が開催したところです。

今年4月から始まった「若手交流会」。後継者不足、若手の参加が少ないといった状況を改善するために新たに作られました。若手の組合員との交流のために作られたもので、1年に1回だけです。が、1分会3万円の補助金が支給されます。

嵐の中で交流会

第4ブロック

7月28日(土)、第4ブロックで若手交流会を行ないました。場所は、京成高砂駅近くの韓国料理店「ぶた家」。

この日は台風12号が関東を直撃。悪天候の中、申し込んでくれた人が来てくれるかどうかと不安もありました。多少遅れてくる人もいましたが、申し込んだ人のほとんどが来てくれました。



貴重な意見交換でした

乾杯のあとはしばらく歓談と食事を楽しみました。程よく酔いが回ったところで、参加者一人ずつ自己紹介をしてもらいました。趣味についても一言もらったおかげで、紹介後は会話が弾みました。

葛飾区へ要望を 対区要請行動

8月8日(水)、葛飾区へ要請行動を行いました。葛飾支部からは6人が、区側からは契約管財課とすくやる課から3人が参加しました。

区内業者育成、法定福利費の確保、公契約条例制定などの要望を記載した要請書をあらかじめ出してありました。公契約条例については、現在制定を考えていないが、制定した自治体の事例などを研究し、検討していくという回答でした。昨年度行なった現場アンケートは、今年度も引き続き行なうと確認しました。

募集開始しました

第2回支部集団健診

土建保加入の方が利用できる年に1回の健康診査。まだ受診していないという人は、支部が主催する集団健診を利用してみませんか。平日はなかなか忙しいという人でも受診できるよう、日曜日の開催です。

日時 11月11日(日) 9～12時
場所 テクノプラザかつしか (書庫7-2-1)
定員 400名
一次締切 9月25日(火)

すでに無料受診券を利用して健康診査を受けている方は、無料で受診できません。詳しくは葛飾支部へお電話ください。

心構えを知る 教宣学習会



プロジェクターを利用して説明

8月4日(土)、葛飾支部

らでした。

会館3階にて、教宣部が主催する学習会を行ないました。部員向けの新聞を書くための学習会は毎年行っていますが、組合員全員を対象とした学習会は初めてです。学習会を開いたきっかけは、分会新聞発行を促すために、まずは教宣部を知ってもらおうと話が出たか

今回のテーマは「災害ボランティア」。講師は、葛飾区社会福祉協議会のボランティアセンターの所長の田浦さんと係長の信太(しだ)さんです。この学習会は、葛飾区が協働の取り組みの一つとして行なっている「出前講座」を利用しました。西日本の豪雨災害も

あり、連日ボランティアの方々の姿が報道されています。豪雨による被災からまだ間もない時期の開催ということもあり、25名が参加してくれました。

始めは、かつしかボランティアセンター所長の田浦さんから、社会福祉協議会がどういったもので、何をしているのかを話してくれました。ボランティアをしたい人とボランティアに来てもらいたい人を結びつけ、調整するのが主な役割と言うことでした。実際に、高齢者のちょっとした困りごとを助けるものから、子どもの保育に関するものまで、幅広く対応しています。ボランティアを必要とする人は多いのですが、ボランティアとして参加してくれる人が今は不足

しているそうです。

次に、「災害ボランティア」についてをボランティアセンター係長の信太さんから話を伺いました。災害ボランティアとは、阪神淡路大震災をきっかけに被災した地域を助けてくれるようになりまし。災害のときによく耳にするようになった「災害ボランティア」ですが、参加する心構えや準備、被災地での活動などの詳しいことは、知らないことも多くあります。心構えから、準備、ボランティア後についてまで、わかりやすく話してくれました。

アンケートでは、「よかった」と言う意見や「また学習会を開いて欲しい」といった意見があり、よい学習会となりました。次回開催も検討していきます。



家族も連れて参加してくれました